

頑張れ!
ルーキー

rookie FIGHT!!



郡川を守る会(沖田町内会) 清掃活動

草刈り機も自分たちで購入し、
すべてボランティアでの清掃活動！
ふるさとの川をよみがえらせた地域の力。



通ることさえできなかつた土手が今では地域の人の憩いの場に。

郡川は、長さ15.9km／幅約65mの大村市を代表する川で、水源の多良山系から萱瀬・竹松地区を流れ下り、福重地区を通過して大村湾に注いでいます。

橋の上から眺めると、きれいに清掃された土手や川原が広がっています。清掃活動を行っているのは、川沿いの地区の自治会。取材にうかがった日は、沖田町の自治会の方たちが朝早くから草刈りに汗を流していました。

「昔は土手が木々で覆われて通れなかつたんです。川原にはセンダンの木が埋まって防災面でも心配でした。そこで5年前、ふるさとの川は自分たちの手できれいにしようと町内に呼びかけたんです。最初は40名たらずの参加でしたが、現在は沖田町内会250世帯のうち120名の参加・協力を得て1年に4回のボランティアでの清掃活動を行っています。郡大橋から矢次橋までの約4キロというかなり広いエリアですが、おかげで以前とは見違えるほど、

きれいになりましたよ。」と語る沖田町内会の朝長英美会長(55歳)。額の汗をぬぐいながらも、笑顔がいっぱいです。



沖田町内会会長
朝長英美さん

また、郡川といえば、春には一面に咲く菜の花が人々の目を楽しませてくれています。実はこの菜の花の種をまいているのも沖田町内会。この日刈られた川原に菜種を蒔いて春を待ちます。春になり一面に菜の花が咲いたあとは、またみんなで種をとる作業を実施。最初の年は県の土木事務所から種をもらいましたが、それ以降はずっと自分たちで種をとって「菜の花の咲く郡川」を育てています。

美しいふるさとの川を守るためにがんばる人々の熱い心は、菜の花の風景とともにこれからも受け継がれていくことでしょう。

「きれいに刈られた芝生の土手は、今では通学路やジョギングコースにもなっているんですよ。みんなが喜ぶ顔を見るのがうれしい。」と語る副会長の梨木繁夫さん。



使用している草刈り機は、清掃活動のために個人の負担で自主的に購入。気合いじゅうぶん！



県の土木事務所に申請して作ってもらったハシゴ。これにより安全に川原に降りられるようになった。清掃活動時の草刈り機の燃料や軍手、ジュースなどを土木事務所から援助してもらっている。

長崎県では、県内の河川・海岸・道路・港湾・漁港・都市公園・砂防公園などの清掃美化活動に取り組む団体を「愛護団体・アダプト団体」として登録し、その登録団体の活動に対し支援を行っています。

お問い合わせ◎長崎県土木部関係地方機関

または長崎県土木部河川課管理班 ☎095-894-3082